

ノーマライゼーション

障害者の福祉

2008 APRIL

4



特集 障害者基本計画後期重点施策～概要と評価～

- フォーラム2008 全国障害者スポーツ大会の見直しについて
- ワールドナウ ISO内に日本提案で、アクセシブルデザインの推進諮問機関が発足
- 工夫いろいろエンジョイライフ コップを持つために、他



財団法人 日本障害者リハビリテーション協会

ゆんるり

高次脳機能障害者の社会復帰、おにぎりカフェ「ゆんるり」を訪ねて



センター長の岸川さん(2列目左)とメンバー。みな個性的で楽しい人たちである

写真・文 米山真人

「赤
やす
の推
恋の
いま
自立
的に

写真



再生され

本書
また、
だけ



厨房と客席が一体となった広い店内。客席からメンバーの働く様子が分かる

昨年10月に横須賀市にオープンしたおにぎりカフェ「ゆるり」。厨房と客席が一体となった開放感あふれる店内では中途の身体障害者と高次脳機能障害のあるメンバーが接客や調理を担当している。新潟産コシヒカリを使い、鮭や昆布を具材にしたおにぎりを中心にランチセットや一品料理、デザートなど、豊富なメニューを提供している。

高次脳機能障害とは事故による脳挫傷や風邪が原因で起こる脳炎、脳梗塞の後遺症からくるものである。新しいことが覚えられない、ひとつのことに集中できない、感情の抑制ができなくなる、といったものが代表的な症状だ。

これを読んで思わずグクリとした人も少なくないのではないだろうか。誰にでも起こりうる現象で、それだけに本人も障害に気づきにくく、周囲から理解を得られにくいという側面を持っている。しかし疲れや寝不足で集中力が低下するのは明らかに違い、脳神経の損傷というはつきりとした物理的原因からくるものである。

たとえば事故の後、肉体は細胞の代謝で回復するが、脳細胞は代謝しないため損傷は回復しない。高次脳機能障害に気づかぬまま社会復帰した場合、以前とのギャップから周囲との人間関係が保てなくなり、うつ病になるなど精神面で大きなダメージを受けるケースも稀ではないという。

誰にでも起こりうる障害で、世の中に広く認知されることが課題だと事前に聞いていた。クリアしなければならぬ課題が山積み



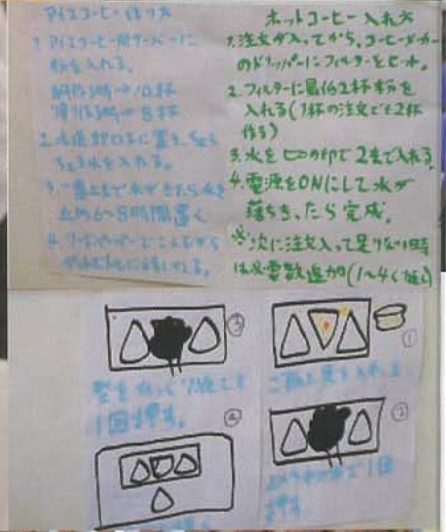
ひとつひとつ丁寧に盛りつけられるランチ



接客は相手に合わせ臨機応変な対応が求められる



記憶できないことはメモを利用してサポート。言葉で物事を理解する人もあれば、イラストでなければならぬ人もあり、個人差は大きい



業務終了後、日誌をつけるメンバー。一日を終え、笑顔がこぼれる。「みな優しく仕事しやすい空間」と語った

誰にでも起こりうる障害で、世の中に広く認知されることが課題だ。と事前に聞いていた。クリアしなければならぬ課題が山積み

で、その道のりはさぞ険しいもの……訪れた店内は、こちらのそんな想像を吹き飛ばすくらいメンバーもスタッフも活き活きしていた。

「私はここにいるときがとても楽しい」

センター長の岸川江利子さんは明るく語った。できることをひとつひとつ、こなししていく。決してできないことを責めたりはしない。そうして時を重ねていくうちにメンバーも自分にできること、できないことを認識していくという。

「おかしな話ですが、私たちスタッフも互いに良い点を褒めあうようになりました」

人の持つどんな小さな可能性も大切に育てていく、当たり前のように、実は難しいテーマを実践している。厨房に立つ彼らの背中からそんなことを感じた。



おにぎりカフェ「ゆんるり」

横須賀市久里浜4-2-4

京急久里浜駅より徒歩3分

TEL 046-838-4627

FAX 046-838-4617

カフェ 10:00-14:30

ランチ 11:30-14:00

定休日 水・土・祝祭日

年末年始



質の良い食材を使用して丁寧に作り込まれたランチセット。500円という廉価な設定もうれしい